

所属・資格 国文学科・教授

申請者氏名 久保木 秀夫

研究課題		中古中世仮名文学に関する原本資料の調査研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	<p>古典文学に関する原本資料、また各種複写物を対象として、申請者が専門とする和歌・仮名散文に関する新出資料や、再評価し得る資料、従来節を覆す資料などの発掘・調査・研究を進めていく。結果、学術的価値を認められたものについては、諸学会での口頭発表や学術誌等における論文化を逐次行っていく。</p> <p>その際、原本資料を所蔵している各種機関、また複写資料を収集し続けている国文学研究資料館といった研究機関を活用し、さらに古書販売目録に掲載されている原本資料類をも視野に入れつつ、本研究活動を展開し、目的を達成していく。</p>
	研究の結果	<p>原本資料の所蔵諸機関への訪書や、web 公開されているデジタル画像の閲覧、国文学研究資料館蔵マイクロフィルムの閲覧、影印・複製本の点検・再点検、古書販売目録のチェック等を能う限り行い、この1年間で、主立ったものだけでも次の資料についての調査研究を実施することができた。</p> <p>①藤原俊成筆昭和切『古今和歌集』残簡、②『古今和歌集』定家本諸本（10 数点）、③『古今和歌集』非定家本（3 点）、④『新古今和歌集』寿本、④『新古今和歌集』残簡、⑤伝藤原定家筆『新古今和歌集』断簡、⑥『新古今和歌集』隆祐本、⑦『新古今和歌集』書入本、⑧『和漢朗詠集』定家本、⑨伝定家筆龍形切『拾遺愚草』断簡、⑩『河海抄』正徹本、その他。</p> <p>うちいくつかについて次項でより具体的に述べるが、いずれも各作品や各作者等の研究に新見をもたらす重要資料と判断されるため、より詳細に考察し、学術成果として公表していく予定である。</p>
	研究の考察・反省	<p>本年度サバティカルを取得できたため、全国の所蔵機関に赴き、多くの原本資料を実地に調査することができた。中でも特記されるのは、天理大学附属天理図書館において、存否不明となっていた前項①を見出したことである。資料的価値は極めて高く、令和7年度に学会発表を行い、また影印本を出版する準備を進めているところである。もう1点、京都女子大学図書館谷山文庫蔵の前項②につき、延べ1週間を費やして徹底的に調査できたことも収穫であった。その成果についても現在論文化を進めている。ほか相愛大学図書館蔵の前項④、今治市河野美術館蔵の前項③⑧などに関しても、新たに学界に知らせるべき資料的価値があることを確認し得た。資料と情報の蓄積が大いに進み、整理が追いつかないのが唯一の反省点と考えている。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	<p>※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。</p> <p>【研究発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『古今和歌集』藤原基俊本に関する原本資料いくつか — 『古今集作者部類』伏見宮本・伝世尊寺行俊筆長良切ほか— 和歌文学会関西例会 2024年4月20日 於京都精華大学（対面のみ） ・『新古今和歌集』承元三年六月十九日奥書本と伝藤原定家筆断簡—基準本文の設定と整理に関する提案— 和歌文学会例会 2024年7月20日 於日本大学文理学部（対面のみ） 	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>【研究成果物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料紹介 伝世尊寺行俊筆長良切『古今和歌集』断簡の集成と翻刻 —藤原基俊本に関する原本資料その— 語文 第177輯 2024年6月 ・伝藤原定家筆『新古今和歌集』断簡 語文 第178輯 2025年1月 ・烏丸光広の鑑定事績 書物学 第26号 2025年2月 勉誠社 	